『表現学』第7号（2021年2月5日）抜刷
大正大学表現学部表現文化学科

# 日本人大学生の日本語聴解に関する調査研究（3）

## ―オーセンティック教材聞き取りの誤答分析と今後の課題―

中 島　紀 子

# 日本人大学生の日本語聴解に関する調査研究（3）

## ――オーセンティック教材聞き取りの誤答分析と今後の課題――

中島　紀子

### １．はじめに

日本人大学生（以下、「学部生」とする）は媒体を「正確に聞き取っているのか」3 年間にわたり「日本語の聞き取りワーク（以下、「ワーク」とする）」を用いて調査を行ったところ、社会人として必要な知識を「正確に聞き取れていない」実態がみえてきた。

また、大学以前の学校教育においてワークの経験有無を調査したところ、いずれの調査年においても 40%程度の学部生が小学校、中学校、高等学校の国語（現代文）において物語文や教科書の内容を聞き取ったことがあると回答したが、実施は2、3 回程度だったと答える人が殆どであり、大学以前の学校教育ではワークの実施は系統だっていないことがわかった。

調査において、被験者から「聞き取りで聞く力を身につけ国語力にむすびつけていきたいと思います」「聴解のために色々な年代、性別の人と幅広く話してみることも大事だなと思いました」などのコメントが毎回あったことから、ワークにより「聴解力」向上の効果が見込めると推察する。

一方、大学生の国語力の課題は、重田・中原（2019）等で分析されているとおり、漢字能力を含む「語彙力」や「読解力」であるとされ、「聴解力」について論じられることは非常に少ない。現在、各大学においても大学卒業後の就職を視野に入れ、SPI テスト攻略のための語彙力や読解力の向上を目的に、「文章表現」や「表現技術」といった授業を取り入れ、「会話」能力向上のための「プレゼンテーション」を行う授業を増やす等さまざまな対策が取られている。

しかし、コミュニケーションにおける「傾聴」の重要性を示されることがあっても、話を「正確に聞く」重要性に関して取り上げられることがほとんどない。

そこで、「聴解力」に関する先行研究を見直し、日本語教育の試みを国語教育に取り入れるべく、学部生を対象としたワークの試みを提言する。

### ２．国語教育における聴解に関する研究

日本人の生徒、または学部生を対象とした先行研究にあたると、国語教育では、授業中の教師の話や対話における相手の言ったことを正しく聞いてまとめて書く「聞き書き」や、コミュニケーションにおける良い聞き手であるための習練が中心となっている。2.2 に挙げた「母語である日本語の聴解に関する研究」は管見する限り非常に少なく、「日本人なら日本語を聞き取れるのは当たり前」であると考えられていることがうかがえる。

#### 2.1　国語科授業改革のための研究

増田（1994）は明治から平成までを対象に、話す・聞くことに関する先行研究や教育実践についてまとめている。明治時代と大正時代が「独話中心」であったのに対し、昭和前期になって「談話」や「話し合い」などの指導がされるようになったという。同時にラジオが急速な勢いで普及するに伴い、聴くことの指導も盛んになったそうだ。

森久保（1996）は、聞く力を育てるために、メモを取りながら確実に聞き取ることや、心を寄せて聞くことの体験を得させる大切さを説いている。

髙橋（1998）では、主体的に聴く力、ならびに論理的に聴く力を鍛えるための授業運営とはどうあるべきか具体的な授業運営の方法を示している。

#### 2.2　小中高生を対象とした聴解力研究

寺井（2003a）は日本語を母語とする生徒に対しての日本語の音声言語教育の必要性について触れ、小学校のみならず中高生の時期こそ音声言語教育を十分に施すべきだと展開している。

若木（2006）では中学生を対象に独話理解の場面を取り上げて情報処理という観点から分析を行ったところ、情報を分節化することや相互の関係を捉えること

ができにくく、構成についての知識を活用してマクロ構造を把握することができにくいという実態結果が出た。また、若木（2007,2008,2009）においては、小・中学生を対象に独話を聴取し、独語内容に関する問いに答えるという活動を行い、話し手を変えることと、情報を再構築する機会を与えた場合にどのような変化が表れるか実証している。

森（2009）は、前年の中高生を対象とした試験実施同様、小中高生に、非日本語母語話者向けに能力レベルを測定する日本語能力試験聴解の問題を受けさせ、受験結果を分析したところ、(旧試験方式の）１級と２級の問題では、中学生と高校生では有意な差は見られないが、小学生とは有意な差がある、ことがわかった。森は2012年にも、日本語能力試験の聴解問題を使い、小中高生の聞き取り能力を正しく測るためにはどのようなテストを参考に、国語の聞き取りテストで何を測ればよいのかという課題について検討した。

半田（2010）においては、母語教育における「リスニング」指導の必要性を、日本語の母語話者（中学生・高校生）と非母語話者（大学生）の聴解能力を比較し、それぞれの特徴や課題を分析することで、必ずしも母語話者が優位であるとは限らないことを明らかにしている。何語であれメモをきちんと取り、活用することができれば、正答率は高くなることを確認している。

### 2.3　高校入試における聞き取り試験

近年、高校入試の国語の試験に聴解が導入されているが、設問が内容理解の域を出ず、実施の効果が聴解力向上に結び付くかどうかの検証はされていない。

森（2012）によれば、公立高校入試において国語の聞き取り試験が行われたのは、早くは青森県が 1979年度の入試において「放送による検査」を始めている。その後 1994 年度に沖縄県、1995 年度に佐賀県が取り入れ始め、関東では2008年度に千葉県が導入した。試験内容に関しては、各県で差があり、短歌などを読ませてから本文と設問を聞く試験や、外来語についての講演を聞いて印字された設問に答える試験、車内放送に関する話し合いを聞き、印字された質問に答え、さらに40～60字の感想を述べる試験などがある。

寺井（2003）によると、名古屋大学教育学部付属高等学校では、2002年度の高校入試の「国語」の問題に初めて日本語の聞き取り問題を出題し、具体的には、説明文を二度繰り返し聞き、内容に関する質問に答える「内容理解」の出題であった。また、中学卒業段階の生徒が充分な聞き取り能力を持っているとは言えず、日本語を「話す・聞く」力を十分訓練しなければならないことを示唆している。

旺文社調べの 2019 年春に実施された都道府県公立高校入試問題では、91の高等学校のうち、9つの高校が「国語」の問題に日本語の聞き取り問題を取り入れているが、中学校における聴解授業との関連や聴解の効果が検証されていないことが問題である。

現在の国語科教育では、高校入試を中心に聞く試験が普及しつつあるが、その多くは本文に対する判断力や思考力が測られ、メモを取る能力が問われる試験になっており、聞く能力をうまく測れる試験になっていないという課題がある。しかし、高校入試に聞き取りの問題が出題されていることからも、「日本人だからといって日本語を聞き取れるのは当たり前ではない」という考えもあることがうかがえる。

## ３．日本語教育における聴解に関する研究

母語話者向け日本語聴解領域の研究が少ない一方、日本語教育の聴解研究において、非母語話者向けの日本語聴解能力向上のための研究は数多く存在し、聴解力のメカニズムを解明しようとするもの、聴解力向上を妨げている要因を探るもの、聴解力向上の学習方法を提示するものなど、音声言語教育に直接かかわる「問い」が多岐にわたって論じられている。

日本語教育において中心となる「聴解」の研究は、あくまでも非母語話者の聴解力向上の目的のために行われており、日本語非母語話者と日本語母語話者の聴解メカニズムを比較する方法から差異を測り、聴解ストラテジーを論理的に明らかにすることで指導方法を導くことが多い。

### 3.1　聴解ストラテジーの活用

河内山（1998）は聴解ストラテジーの意識的使用による効果について、学力の高い留学生と学力の低い留学生の比較から明らかにした。1聴いた文章を理解し、その内容の要点を記憶していく。2 一部聞きのがしても、すぐにその次から理解するよう試み最後まで聴き続ける。3 知らない言葉があっても前後関係から推測して意味をとる。その他12のストラテジーを予め教えた学習者と教えずに聴解に取り組んだ学習者との比較を行い、ストラテジーを知っていた方が得点が高い結果を得ており、聴解ストラテジーの重要性を検証した。

横須賀（2000）では、聞き取りに使用するコミュニケーション・ストラテジーについて、聞き手としての

観点から分析し考察を試みている。「聞き返し」「応答」「再質問」「回避」というストラテジーを対話相手の発話全部にではなく、選択した情報に対して集中的に使っていることを指摘している。

聴解力に関する研究動向として、聴解におけるストラテジーを解明し、聴解力向上に結び付けるものが多い。金庭久美子（2010）は、日本語教育における聴解指導に関する研究として、ニュース聴解の指導のために必要な「言語知識」と「認知能力」について明らかにし、「予測」のストラテジーを使うタイプの学習者は十分な語彙力を持っていることもわかった。蒔田(2014)は、母語話者である日本人大学生、中国人大学院生、中国人学部生の比較から、中級日本語学習者には「予測」や「推測」のストラテジーの効果的な使用は可能か、またどのように「予測」や「推測」のストラテジーを使用するのか解明している。

福田（2004）においては、ワーキングメモリ理論を枠組みとして、聴解力と記憶容量の関係を実験的に検討し、学習者の聴解メカニズムを明らかにしている。母語話者のほうが聴解の処理時間が短く、習熟度によっては学習者の母語の種類に左右されないことを示している。

### 3.2　第二言語習得の応用

島田（2006）他では、1999 年に公開された‘TOEIC Can-Do Guide’を参考に、日本語能力試験受験者を対象として、具体的な言語使用場面における日本語能力を自己評定方式で測定する Can-do-statements 調査を用いて、成績別に、日本語能力試験受験者が具体的にどのような言語行動ができるかを明らかにした。

島田（2010）によれば、日本語教育学会の試験分析委員会では、Can-do statements 調査を 1997 年から行い、日本語能力試験の妥当性を検証している。

三國・小森・近藤（2005）は、聴解における語彙知識の量的側面が内容理解に及ぼす影響を読解と比較しながら研究し、第二言語としての日本語の聴解においては、文章の内容理解にどの程度既知語率が必要であるかを検討した。また、日本人英語学習者との比較も行っている。聴解においては、語彙知識の量的側面が内容理解に及ぼす影響は読解のそれより低いことが示唆され、語彙以外の要因が大きく影響していると結論付けている。母語の習得においても第二言語習得の手法が大いに応用できると考えられる。

### 3.3　本研究への取り入れ

以上のように、実証的研究、かつ、聴解指導法研究が主であり、その方法は大きく 3 つに分けられる。1 つ目は聴解試験における学習者の誤りから学習者の母語の干渉や音声学上の特徴を分析し、音声言語教育を取り入れる方法である。2 つ目は日本語学習者と日本語母語話者両方を被験者として聴解試験を行い、母語話者がどのように聞くプロセスを踏んでいるか分析し、非母語話者の教育へ取り入れる方法である（情報を獲得し、処理し、内容を理解するために用いる「ストラテジー」を促進させる）。3 つ目に、語彙や文型、内容（文化的背景など）に焦点を当て、被験者が予備知識なく聴解試験を受けた場合と、必要な情報を予め学習したうえで聴解試験を行い両方を比較し、聴解の妨げとなっている要因を探り、授業に取り入れる方法である。

本研究は、対象を学部生に絞り、日本語母語話者の被験者にとって、聴解の妨げになっている要因を明らかにし、聴解力向上を目指すためのワーク作成を模索するため、日本語教育の先行研究は大いに転用することができる。特に、聴解指導法研究は母語話者の聴解教育に少なからず応用できるものである。

## ４．オーセンティック教材による聴解力調査

調査はこれまで同様、動画の音を聴き、日本語を聞き取りプリントの穴を埋めてもらう方式をとったが、今回はコロナ禍の状況により、例年通り対面授業の中で実施することができず、オンライン zoom を利用し、wi-fi 環境や音の聞こえなどを確認しながら調査を進めた。

対象者は本学表現文化学科に所属する 16 名の学部生で、教養科目の授業「社会の探究Ｅ（ソーシャルメディアの言語技術）」を履修する一年生８名とクリエイティブライティングコース四年生８名の協力を得た。調査期間は 2020 年 12 月 25 日から 29 日の 5 日間で、1 名から 4 名の小グループに分けそれぞれ約 1 時間で実施した。

授業中の実施では、穴埋め用紙を配布しワーク実施ののち被験者が記入したものを回収し集計していたが、今回の調査では、オンライン上で配布した穴埋め用紙を見ながら、各自が手元に用意したメモ用紙に記入し調査後にメモを写真に撮って送ってもらうか、各自の解答を調査用紙に打ち込んだものをメール添付で提出してもらう方法で調査用紙を回収し集計をした。

4.1　調査内容

過去の調査では、政治・社会問題、時事問題などの聞き取りが弱いのではないかという仮説のもと、「東京都知事所信表明」「ノーベル賞受賞者インタビュー」「ネット党首討論会」のほか「映画のプロモーションビデオ」「プレゼンテーション」を取り上げた。その結果、「ノーベル賞受賞者インタビュー」「ネット党首討論会」では全問間違えずに聞き取れた学部生が、それぞれ10%、5%程度にとどまった。被験者からも「討論の映像を聞いた時に、聞いたことはあるけれど、意味が分からない言葉が多かった」などのコメントが挙がり、政治・社会問題などの聞き取りに対して苦手意識がみられた。また、年配の男性が話す日本語も聞き取りにくいという意見が聞かれた。

そこで、本調査においても、「男性の話す日本語」「(学部生とは) 年代の違う人 (特に年配者) が話す日本語」「使用頻度の低い日本語 (政治・社会問題)」の3項目に焦点を当て、過去の調査で使用した資材にテレビのバラエティー番組を加え、YouTube の動画6本を利用し聞き取り調査を行った。

①「舟を編む」プロモーションビデオ　穴埋め5語
②「ノーベル医学・生理学賞受賞インタビュー（本庶佑先生)」　穴埋め8語
③「林先生」フジテレビ『初耳学』　穴埋め8語
※旧稿になかった③のみ資1として添付する
④「ネット党首討論」安倍晋三・枝野幸男・中野正志・吉田忠智・松井一郎　穴埋め8語
⑤山田玲司ニコ論壇時評　穴埋め8語
⑥小池百合子都知事「所信表明」　穴埋め10語

**表1　使用度・理解度と誤答との関係**

| | 聞き取りをした ひらがな／漢字 | 回答3、4 合計数（%） ※空欄含む | ＜聞き取り＞ | | ＜漢字＞　※○は学生記入のまま転記 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 誤答数（%） | 誤答例 | 誤答数（%） | 誤答例 |
| ① | いとわず／厭わず | 3（18.8） | 0（0） | | 12（75） | 意図わず、言わず |
| | たんでき／耽溺 | 9（56.3） | 7（43.8） | たんてき、たんれき | 12（75） | 嘆溺、単出来、鍛歴、端的 |
| ② | めんえきりょうほう／免疫療法 | 5（31.3） | 4（25） | めんえきりょうよう、めいきりょうよう、めんいきりょうほう | 5（31.3） | 名器、○○療法、 |
| | ぼうがい／望外 | 13（81.3） | 12（75） | ぼうだい、ごうがい、おおがい、おうがい | 13（81.3） | 膨大、望界、業外、大概 |
| ③ | よじょう／余剰 | 9（56.3） | 1（空欄） | | 11（68.8） | 予情、余情、余○、余乗、余叙 |
| ④ | ほしょう／保障 | 3（18.8） | 3（18.8） | ぐしょう、ぶしょう | 11（68.8） | 愚障、保証 |
| | ほんい／本意 | 5（31.3） | 8（50） | ほんりょう、こんい、ほんよう、こい、ほんゆう | 8（50） | 本領、懇意、故意、本○、○意 |
| | ほつぎ／発議 | 15（93.8） | 8（50） | さんどう、ぶつぎ、ほつり、そつぎ、こくぎ、そつじ | 14（87.5） | 賛同、補議、物議、 |
| | あえて／敢えて | 0（0） | 1（6.3） | あえ | 8（50） | （空欄） |
| ⑤ | たんたん／淡々 | 0（0） | 0（0） | | 6（37.5） | 単々、端々 |
| | かいき／回帰 | 4（25） | 0（0） | | 9（56.3） | 回起、快気、回気 |
| ⑥ | しんてんち／新天地 | 0（0） | 1（6.3） | つきじ | 9（56.3） | 築地、新転地、新展地 |
| | たんそく／嘆息 | 7（43.8） | 1（空欄） | | 9（56.3） | 単息、淡息、喘息 |
| | たんきゅう／探求 | 0（0） | 0（0） | | 10（62.5） | 探究 |
| | しんじょう／信条 | 1（6.3） | 0（0） | | 10（62.5） | 心情、信情、真情、信じょう |

4.2　調査結果

**表２　聞き取り誤答数**　　※A～Hは一年生、Ｉ～Ｐは四年生

| | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①(5) | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 8 |
| ②(8) | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 18 |
| ③(8) | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 10 |
| ④(8) | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 2 | 2 | 0 | 27 |
| ⑤(8) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| ⑥(10) | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | (4) | 0 | 7(3) |
| 計(47) | 6 | 5 | 5 | 1 | 4 | 4 | 5 | 8 | 5 | 2 | 4 | 5 | 6 | 2 | 10(6) | 2 | 74(70) |

※（　）内は学生Oが⑥の聞き取り中、内容を見失い未回答分

表２のとおり、④「ネット党首討論」で誤答が最も多く、次に②「ノーベル医学・生理学賞受賞インタビュー」の誤答が多かった。今回の結果からも、「政治・社会、時事話題」「年配の男性が話す」日本語の聞き取りが弱いことがわかった。

また、表１のとおり、聞き取りができても漢字が書けないことから、それぞれの語句の意味を正しく理解しているのか疑問に残る。実施後のアンケートにも「普段聞いた言葉を漢字に変換して考えることがなかったため難しかった。」というコメントが複数あった。

4.3　結果分析

過去の調査では、授業時間を活用していたこともあり、一度に１つの動画のみ聞き取りを行っていたが、今回は短時間に集中して６つの動画の聞き取りを実施したため、被験者には集中力が求められた。そのため、動画⑥の視聴中に、学生Oがどの箇所をやっているかわからなくなるというハプニングもあった。

表１からわかるとおり、聞き取りの誤答が最も多かったのは、「望外」で全体の 75%が誤答であった。「3 聞いたことはあるが意味は知らない」「4 言葉自体知らなかった」と答えた割合が 81%と高く、学部生の持っていない語彙であることもわかる。次に誤答が多かったのが「本意」と「発議」であるが、「本意」に関しては聞き取れなかったので「4 言葉自体知らなかった」と答える割合が上がったが、聞き取れていれば知らない言葉ではないだろう。一方、「発議」に関しては、限られた場で使用される語彙のため、聞き取れていても言葉自体知らない可能性が高いと推測される。

また、今回の調査は少人数で実施したため、調査後に直接話を聞けるメリットもあった。特に、小学校の国語の授業では、重要な箇所のメモを取りながら教科書の内容をＣＤで聞き、聞き終わってから予め配布されていた用紙に書かれた質問に答えていく、という聞き取りテストの具体的なやり方も聞けた。実施後にメモの取り方の講義もあったそうだが、一緒に受けていた学生も違う県に住んでいたにも関わらず、全く同じやり方の聞き取りテストがあったこともわかった。

## ５．聴解に関するアンケート調査

聴解調査に続けて、アンケート（資料 2）に回答してもらったところ、「これまで国語などの授業で日本語の聞き取りをしたことがあるか」の問いでは、四年生では２名のみ「ある」という回答だったのに対し、一年生が全員「ある（主に現代文の授業において実施）」と答えたことから、大学以前の国語の授業において、聞き取り練習の導入が増えていることが推察される。

5.1　取り上げた聞き取りに関する質問

聞き取りをしてみた感想を自由に記述してもらったところ、以下のような回答が得られた。コメントからも「政治・社会、時事話題」「年配の男性が話す」日本語の聞き取りに苦手意識があることがわかる。

〔**聞き取りがしやすかったもの**〕

・おじいさんの方がゆっくりなのでフラッシュの音が厄介だったけれど聞きやすく感じました。

・一方的にしゃべっている会見・紹介動画等は、こちらを意識して喋っているものが多く、聞きやすかった。
・やはり、一番最初の『舟を編む』が最も聞き取りやすかった。声優という職業の凄さを改めて実感しました。またタレントや政治家も聞き取りやすく抑揚のついた発表をしていたイメージです。
・林先生のが一番聞きやすかった。
・聞きやすい声質とは別に、この人の話を聞こうと思える（自分本位ではない・「あー」「えー」「だから」が少ない）話し方が聞き取りやすかった。
・私はまず、話をしている内容が馴染みのある言葉かどうか、で聞き取りやすいかに影響があるように思いました。その次に、話すスピード、それから声のトーンです。

〔聞き取りが困難なもの〕

・複数人が喋っているようなバラエティや、作品の関係者対談らしきものであると、雑談の雰囲気のようなものがあり、喋るスピードが均一ではないものが多く、明確に聞き取れないことが多くあった。
・インタビューの声はマイクの関係上か聞き取りにくかったです。
・党首討論会の何人かが滑舌が悪く聞き取りにくかった。
・政治的な内容は聴き慣れない言葉が多く、他の内容よりも難しく感じた。
・ノーベル賞受賞インタビューは聞き取る言葉は難しくはなかったのですが、話し手の方が高齢者の方だったので、聞き取りづらかったです。
・党首討論会や小池都知事のものは政治的な用語が多く、簡単な単語でも難しい言葉に聞こえました。
・政治や専門的な話題が出ると、何を言っているのか分からずひらがなでさえ書けなかった。。
・安倍前首相の発言が聞き取りにくかったです。（滑舌の問題でしょうか？）
・『この世界の片隅に』についての話が一番聞き取りにくい（話し方が不快、早口）と感じた。
・直前の言葉に少し戸惑うと聞き逃す点がありました。特に初耳学とこの世界の片隅には早口だったので難しかった印象です。

〔語彙・漢字に関するコメント〕

・バラエティー番組やニコニコ動画の聞き取りの方は日常会話に近いので漢字も想像できたけど政治や文学になると恥ずかしながら語彙力がそこまでないので漢字の想像がつきにくかったです。
・普段聞いた言葉を漢字に変換して考えることがなかったため難しかった。
・党首討論会や小池都知事のものは政治的な用語が多く、簡単な単語でも難しい言葉に聞こえました。
・普段よく耳にし意味を分かっている単語でも、漢字では意外と書けないことが分かりました。それだけスマホやパソコンの予測変換に頼っているのだと思いました。漢字が書けないことに焦りを感じたので、大学生でもしっかり漢字を紙にペンで書く機会を設けるべきだと思いました。
・聞き取れるのに漢字が書けない、分からないものが多かった。自分がこんなにも漢字が書けなくなっていることにびっくりした。また、政治や専門的な話題が出ると、何を言っているのか分からずひらがなでさえ書けなかった。
・聞き取れて意味が分かっていても、すぐに漢字が出てこないことに衰えを感じました。
・言葉はわかっても漢字がわからないものも多かったです。
・漢字に変換するのを完全にパソコンに頼っていたので、日常の漢字くらいは書けるように間を見つけて勉強しないといけないなと感じました。

### 5.2　テレビ視聴に関する質問

旧稿（『表現学』第 3 号、第 5 号）において聴解力の低下とテレビ視聴の関係を探ってきたが、今回の被験者にも同じように問いかけた。

一週間のテレビ視聴時間は、1 時間から 42 時間まで個人によりまちまちであった。平均すると 15.8 時間で、視聴するものは「バラエティー」が多く 13 名、次いで 8 名が「ニュース」と回答した。

テレビの字幕を読んでいるかの質問に対し、8 名がそう思う、2 名がだいたいそう思う、それぞれ 3 名ずつがあまりそう思わない、全くそう思わないと答えた。

テレビに関しては、テレビ離れが進んでいると言われるが、一週間の視聴時間が、1 時間（1 名）、2 時間（1 名）、3 時間（2 名）、5 時間、7 時間、8 時間が各 1 名ずつと、確かにその傾向がみられる一方、35 時間、42 時間が 1 名ずついたことから見る人と見ない人の差が大きくなっているようだ。

### 5.3　YouTube 動画視聴に関する質問

総務省調べでは、「情報源としての重要度」「いち早く世の中のできごとや動きを知る」（最も利用するメディア）ともに、10 代の回答がテレビを抜き「インターネット」が一番となっている。そこで、YouTube の動

画視聴に関して、いくつのチャネルを登録しているか質問をしたところ、ひとつも登録をしていない被験者から、104 のチャネル登録をしている人まで個人差が大きかった。一年生は平均 50.7 チャンネル、四年生は平均 26.9 チャンネルの登録をしている。

よく視聴するものから 5 つまでチャンネル名を挙げてもらい、それぞれのチャネルの「日本語字幕」について調べたところ（今回、自動翻訳の機能については調査対象から外した）、72 のうち 23 のチャネルには完全な「日本語字幕」がついており、要件につける「テロップ」は 20 のチャネルが採用していた。その他、ゲームチャンネルで本人が登場するときのみ日本語字幕がつくものが 4 チャンネル、外国語で話している際は日本語字幕が出るものが 2 チャンネルあった。日本語字幕がつかないものには、音楽チャンネルや漫才、アニメ、スポーツなどがあるが、音楽チャネルであれば、概要欄に歌詞が載っていることも多い。

今後、テレビの日本語字幕と同時に、インターネットの日本語字幕についても、調査を進める必要がありそうだ。

## ６．まとめと今後の課題

先行研究を見直すことで、聴解研究の難しさと被験者にとっての聴解の難しさが見えてきた。

足立（2016）にあるように、『聴解に関する研究の難しさは、聴解をしながら被験者がその瞬間を表現できないことである。研究者は聴解行動が終了した後、被験者の記憶を刺激することによって語ってもらうしかない。聴解終了後、被験者が自らの聴解行動を語ることは、記憶から浮上した内容に限られる。被験者は記憶の深層を語ることは難しく、被験者の記憶の深層を覗くこともできず、ブラックボックス状態』である。

また、本研究の調査対象は媒体からの聞き取り、つまり一方的に聞く場面を想定しているため、独話聴解の研究が大いに参考になるが、水田（1996）がいうように『講義や講演などの「独話」は、話し手・聞き手の立場が固定して一方的になされる発話であり、話し手・聞き手の立場が互いに交換されて展開される「対話」とは異なる側面を持つ。聞き手が話し手のスピードや話題、語彙などを変えられないからである。したがって聞き手からの制御性という観点から考えると、独話の聞き取りは母語話者にとっても難しいものである』と考えられる。

調査実施後に被験者と直接話すことで、「聞きながら書く」という同時に二つの活動をすることが困難に感じる被験者がいることもわかった。今後の課題として、動画の選択が重要になってくるが、留学生を対象にテレビニュースをどのように聞いているかに着目し入力データの分析を行っている金庭（2001、2005、2007、2011）や、母語話者との比較から独話聴解における中上級学習者の困難点を明らかにしている田代・中村・大木（2019）が手がかりとなるだろう。

Richards（1983）が、「講義の聴解」は「会話の聴解」とは異なると提唱したが、日本語における「講義の聴解」の領域研究は、その対象（日本語母語話者であるか、日本語非母語話者であるか）に関わらず少ない。「講義の聴解」を独話聴解のひとつと捉えた独話聴解の研究には、日本語母語話者と中国人日本語学習者を比較し聴解ストラテジーの違いを分析した水田（1995）、尹（2001）、同じく日本語母語話者と外国人留学生を比較し、講義の理解に影響を与える要因と理解のためのストレテジーを研究した山下（2000）などがあり、これらの先行研究に学ぶことで今後の調査の質を高めていきたい。

## 参考文献


足立章子（2016）「日本語聴解テストにおけるテスト・アイテム分析と聴解行動―アカデミック・リスニングの視点から―」桜美林大学博士論文

井上敏夫（2009）『国語教育史研究』渓水社

尹松（2001）「聴解ストラテジー使用と聴解力との関係について―日本語を主専攻とする中国人大学生の意識調査の結果から―」『言語文化と日本語教育』第 21 号　お茶の水女子大学大学院 pp. 58-70

大村はま（1983）『大村はま国語教室第二巻』筑摩書房

金庭久美子（2001）「学習者は TV ニュースをどのように聞いているか―日本語教育における聴解能力の測定―『横浜国大国語研究（19）』横浜国立大学国語・日本語教育学会　pp. 69-59

金庭久美子（2005）「日本語教育における聴解教育の変遷と展望」『横浜国立大学留学生センター紀要（12）』横浜国立大学留学生センター　pp. 3-16

金庭久美子（2007）「聴解教育における研究の動向―入力データの分析―」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集（14）』pp. 113-129

金庭久美子（2010a）「日本語教育における聴解指導に関する研究」『日本アジア研究』第 8 号　pp. 1-31

金庭久美子（2010b）「ニュース語彙の特徴分析」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集(17)』　pp. 65-82

河内山晶子（1998）「聴解ストラテジーの意識的使用による効果―学

力差要因と、L1-L2 転移要因を中心に―」『横浜国立大学留学生センター紀要』第6号　pp.26-37
重田美咲・中原郷子（2019）「SPI（言語）から考える大学生の国語力」『下関市立大学論集』第63巻　第1号pp.61-68
島田めぐみ・三枝令子・野口裕之（2006）「日本語Can-do-statementsを利用した言語行動記述の試み―日本語能力試験受験者を対象として―」『世界の日本語教育』第16号　pp.75-88
島田めぐみ・候仁鋒（2009）「中国語母語話者を対象とした日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」『世界の日本語教育』第19号　pp.33-48
島田めぐみ（2010）「自己評価Can-do statementsに関する一考察―客観テストとの比較を通して―」『東京学芸大学紀要』総合教育科学系Ⅱ第61号　pp.267-277
高橋俊三・声とことばの会（1998）『聴く力を鍛える授業』明治図書
田代ひとみ・中村則子・大木理恵（2019）「独話聴解における中上級学習者の困難点―母語話者との比較から―」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第45号　pp.77-94
寺井一（2003a）「高校入試（国語）での日本語の聞き取り試験―音声言語教育との関わりと実施結果の分析―」『日本語論究7』田島毓堂・丹羽一彌編　和泉書院
寺井一（2003b）「国語の高校入試問題における聞き取り試験―実施結果の分析と課題―」『全国大学国語教育学会発表要旨集』第104巻　pp.40-43
浜本純逸（2011）『国語科教育総論』渓水社
半田淳子（2010）「母語教育における「リスニング」指導の必要性―非母語話者との比較から―」『国際基督教大学学報54』（I-A 教育研究）pp.165-179
福田倫子（2004）「第二言語としての日本語の聴解とワークングメモリ要領―中国語母語話者を対象とした習熟度別検討」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部　第53号　pp.299-304
前田由樹・鄧瑩・中原郷子（2013）「日本語母語話者における聴解,語彙力,作動記憶容量間の関係 ： 日本語学習者対象の先行調査として」『エリザベト音楽大学研究紀要』第33号　pp.43-50
蒔田雅子（2014）「聴解ストラテジー使用と手がかり―日本語母語話者、上級学習者、中級学習者の分析から―」『音声研究』第18巻第1号 pp.1-12 名古屋外国語大学大学院
増田信一（1994）『音声言語教育実践史研究』学芸図書
三國純子・小森和子・近藤安月子（2005）「聴解における語彙知識の量的側面が内容理解に及ぼす影響―読解との比較から―」『日本語教育』125号　pp.76-85
水田澄子（1995）「日本語母語話者と日本語学習者（中国人）に見られる独話聞き取りのストラテジー」『日本語教育』第87号　日本語教育学会学会誌委員会編　pp.66-78
水田澄子（1996）「独話聞き取りにみられる問題処理のストラテジー」『世界の日本語教育』第6巻　国際交流基金日本語国際センター　pp.49-64
森篤嗣・豊田誠（2008）「日本語能力試験による中高生の聞き取り能力調査」『全国大学国語教育学会発表要旨集』第114巻pp.155-158
森篤嗣（2009）「母語話者の実験結果による日本語能力試験聴解問題の検証―小中高生の受験結果とアンケートからわかること―」『言語教育評価研究』第1号　pp.35-46
森篤嗣（2012）「日本語能力試験による小中高生の聞き取り能力調査―重回帰分析から見た聞き取りテストの持つ意味―」『帝塚山大学現代生活学部紀要』第8号　pp.101-111
森久保安美（1996）『聞く力を育て生かす国語教室』明治図書
山下直子（2000）「調査報告　外国人留学生の講義理解―理解に影響を与える要因とストラテジーに関する意識調査から」『日本語教育』107号　日本語教育学会学会誌委員会編　pp.95-104
横須賀柳子（2000）「情報取りにおける聞き手のストラテジー」『国際基督教大学日本語教育研究センター紀要』第10号　pp.41-57
若木常佳（2011）『話す・聞く能力育成に関する国語科学修指導の研究』風間書房
若木常佳（2006a）「話す・聞く能力の認知的側面に関する中学生の実態―独話理解の場合―」『日本教科教育学会誌』第29巻　第3号　pp.29-38
若木常佳（2006b）「話す・聞く能力を育成するカリキュラムの構築に向けて」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部　第55号　pp.163-172
若木常佳（2008）「小・中学生を対象とした聞き取り能力についての調査」『全国大学国語教育学会発表要旨集』第114号pp.163-166
若木常佳（2009）「小・中学生における聞き取り能力の実際と指導上の課題―「並列的複数情報の関係づけを支える心的作業」について―」『国語科教育』第65巻　pp.3-10
JACK C. RICHARDS 1983 Listening Comprehension: Approach, Design, Procedure TESOL QUARTERLY. Vol.17, No.2

## 参考サイト

・総務省ホームページ
令和元年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査（9月30日掲載）報告書　閲覧日：2020年12月20日
https://www.soumu.go.jp/main_content/000708016.pdf

＜調査に使用した①から⑤のYouTube動画のURLは以下のとおりであり、視聴はすべて2020年12月20日からである＞

①https://www.youtube.com/watch?v=XOiIHHxMqE4
②https://www.youtube.com/watch?v=apOzcK7TUJc
③https://www.youtube.com/watch?v=3cHkcjiqLPE
④https://www.youtube.com/watch?v=Z1hy9f622i4
⑤https://www.youtube.com/watch?v=hbN4xq_rtC0
⑥https://www.youtube.com/watch?v=lwcr6GF7r0k

資料１

**林先生が驚く初耳学ネット**

あの東大から考えれば、まぁ、①（　　／　　）な結果だなと。
文章って構造体なんですよ。明確な構造があるんです。イメージ的にいうと、技術をもった②（　　／　　）さんが③（　　／　　）も使わないで、建物を建てるっていうことを考えていただくと、じゃあ、一つの情報を見つけてきた、と。これは、じゃあ、ここで、柱として使おう。この上の、屋根の部分は、少し、もともとは材料があったかもしれないけれども、自分で④（　　／　　）、屋根に使えるようにして、ここのつなぎ方をどうしようかと。これは熟練の技術があって初めてつないでいける。文章っていうのは、一個一個の意味が、⑤（　　／　　）をですね、きちんとつないでいかなかったら、ちゃんとした全体のまとまりにならないんですよ。でも、よくある、まとめサイト？まとめネイバーみたいの、ところを、こう見つけてきて、しかも、コピペする頭になっている人っていうのは、ちょっと難しいのは、もう面倒くさいから戻るんですよ。読みやすいやつは拾う、難しいのはカットする、この柱がないところに、ネット検索して、こう集めてきたものを、適当に、感覚的なつなぎ方をするような、そういう頭になってしまうと、論理的な思考はできるようにはならないんじゃないかな、と僕は思いますね。

女性「じゃあ、その立体構造っていうのは、どうすれば身についていくもん、なるんですか」

やはり、まず本を読むことですよね。だったら、じゃあ、ちょっと本読もうかな、と思われた方もいると思うんですけれども、その、本を読むということについて、実は、これまた
⑥（　　／　　）な、記事を見つけました。どうぞこちらを。
書店が減り続けていて、全国の 2 割以上の市町村に⑦（　　／　　）もない。全国の、400 以上の〔市町村〕にはなんとか書店っていうのはないんですよ。

男性「ネットで本を購入する習慣ができているからっていう、そういう構造的な問題もありますよね」

あります。本屋っていうのは、こういうふうに、ふらふらふらふら見ている中で、あ、これいいな、っていうような、そういう買い方をしますよね。ところが、ネット空間っていうのは、ピンポイントここっていくんですよ。

男性「この一冊だけ買おうって本屋行っても、違うの買っちゃったりしますもんね、いろいろね」
男性「結構寄り道しちゃいますよね」

そのねぁ、寄り道、⑧（　　／　　）、それが知なんですよ。そういうものなんですよ。無駄なくピンポイントで「これ」っていうのは知じゃないんですよ。

**①から⑧のことばは、次のどれに当てはまるか数字を書いてください**

1　自分でも使っている　／2　自分では使っていないが意味はわかる／
3　聞いたことはあるが意味は知らない　／4　言葉自体知らなかった

①＿＿＿＿②＿＿＿＿③＿＿＿＿④＿＿＿＿⑤＿＿＿＿⑥＿＿＿＿⑦＿＿＿＿⑧＿＿＿＿

資料２

## 聴解に関するアンケート

問１　これまで国語などの授業で日本語の聞き取りをしたことが〔　ある　・　ない　〕

＜あると答えた方＞

何の授業でしたか　→　〔　国語（ 現代文 ・ 古文 ）　・　その他　→　（　　）〕

いつの授業でしたか　→　〔　小学校　・　中学校　・　高校　・　その他　→　（　　）〕

どんな題材を使用していましたか　→〔　　〕

**【取り上げた聞き取りに関する質問】**

①「舟を編む」第２弾ＰＶ
②「ノーベル医学・生理学賞受賞インタビュー（本庶佑先生）」(2018.10.1)
③「林先生」フジテレビ『初耳学』(2018.2.26)
④「ネット党首討論（2017.10.7)」安倍晋三・枝野幸男・中野正志・吉田忠智・松井一郎
⑤「この世界の片隅に（こうの史代作)」山田玲司ニコ論壇時評（2016.12.14 号)
⑥小池百合子都知事「所信表明」(2016.9.28)

※問２から問４の設問に関する答えを、

**〔１．そう思う　２．だいたいそう思う　３．あまりそう思わない　４．全くそう思わない〕**

の中から選んで１～４の数字で書いてください。

問２　使用した資材の難易度は適当であった。〔　　〕

→難しいと感じたものに○をつけてください　〔 ①　②　③　④　⑤　⑥ 〕

問３　聞き取り練習として今回のような「身近な題材」を教材として使うのは良いと思う。〔　　〕

問４　聞き取りを通して（以前より）日本語の聞き取りに関する興味・関心が高まった。〔　　〕

問５　聞き取りをしてみた感想を自由に書いてください。(○○が聞きにくかった等なんでも可)

**【テレビ視聴に関する質問】**

問６　平均すると一週間に合計何時間テレビ（ニュースを含む）を見ていますか。〔　　〕時間

問７　どんな番組を見ますか。　※下の〔　〕の中で、見るものに いくつでも○をつけてください

〔　ニュース・ドラマ・音楽・バラエティー・クイズ・ドキュメンタリー・その他→（　　)〕

問８　テレビを見るとき、画面に出る日本語字幕を読んでいますか。

**〔１．そう思う　２．だいたいそう思う　３．あまりそう思わない　４．全くそう思わない〕**

の中から選んで１～４の数字で書いてください。〔　　〕

**【YouTube 視聴に関する質問】**

問９　チャンネル登録はしていますか。　いいえ　・　はい〔　　〕つ

問 10　問９でチャンネル登録をしていると答えたかたは、登録しているチャネル名を書いてください。５つ以上登録している場合は、よく閲覧するものから５つまで書いてください。